

外伝 その1

《多摩川のゾウ、クジラ、ジュゴン》

多摩川水系の河原は、化石が出ます。3例を、上流の方から紹介しましょう。その化石は、人類が誕生するとともに大陸に氷河ができた年代のものです。地質年代でいうと、新生代第四紀更新世前期（注1）になります。

まず、支川浅川の上流、八王子市役所の近くの河原から、ゾウの化石が発見され、牙、歯、大腿骨（だいたいこつ）など30個が収集されました。分析の結果、240万年前に生息したゾウと判明し、ハチオウジゾウと名付けられました。日本におけるゾウは、大陸から来て、餌と環境に順応した経過を辿り、ミエゾウ、アケボノゾウと小型化していきます。（注2）ハチオウジゾウは、学術的に、アケボノゾウの先祖型の新種と位置づけられ、貴重な発見でした。なお、都内でも化石が見つかったナウマンゾウは、もっと新しい時代の30万年前頃から日本に生息していたゾウです。

次に、本川上流に架かるJR八高線橋梁の直下流から、クジラの化石が、ほぼ完全な形で発掘されました。160万年前に生息していたものです。クジラの全長は約16mで、このクジラは「アキシマクジラ」と名づけられ、現在は東京・国立科学博物館に展示されています。（注3）発見場所は、クジラ公園になっています。

また、宿河原堰の直下流に、130万年前の地層が露出しており、そこからジュゴンの仲間である大海牛（ダイカイギュウ）の化石が発掘されました。この地点は、小田急和泉多摩川駅から歩いて行くことができ、貝の化石が採取できます。

これら化石の産する時代は、フィリッピン海プレート上の伊豆半島が北上して本州に衝突する以前の、富士山もまだ誕生していない年代のものです。（注4）

注1：新生代は、恐竜が絶滅し、哺乳類の時代となった約6500万年から現代に到る期間です。

新生代のうち第四紀は、地球が寒冷化しユーラシア大陸に氷河ができ、アフリカに人類が出現した約258万年前から現代に到る期間をいいます。

第四紀のうち更新世は、約258万年前から約1万年前までの期間をいい、洪積世とも言わ

れていました。現在のユーラシア大陸と日本列島はすでに出来上がっていましたが、氷期と間氷期で海水準が変動し、日本列島が大陸と地続きになったり海で隔絶されたりした時代です。

注2：日本のゾウの系譜は、①ミエゾウ（400万～200万年前、肩の高さ4m）→②アケボノゾウ（200万～100万年前、肩の高さ2m）→③ナウマンゾウ（30万？～1.5万年前、肩の高さ2.5～3m）とされています。

注3：アキシマクジラは、ヒゲクジラの仲間でコククジラに近い種類ですが、現在のクジラと異なることから、「アキシマクジラ」と命名されました。

注4：伊豆半島が本州に衝突するのは、100万年前です。この衝突により、丹沢山系が誕生し、ずっと後に富士山が噴火します。富士山の噴火は、古富士山まで遡り、1万年前のことになります。

写真は、①化石発見場所（Yahoo 水域図に細見加筆）、②ハチオウジゾウ（浅川写真散歩HP掲載写真「発掘現場での説明から象の様子を想像」）、③アキシマクジラの発掘現場（1961年（昭和36）、昭島市自治会連合会HP掲載写真）、④ダイカイギュウ（国立科学博物館HP掲載写真、地学研究部甲能直樹の「わたしの研究」コーナー）



